

## 第 148 回エイズ動向委員会

## 委員長コメント

## 《平成 28 年第 4 四半期》

## 【概要】

1. 今回の報告期間は平成 28 年 9 月 26 日～平成 28 年 12 月 25 日までの約 3 か月
2. 新規 HIV 感染者報告数は 253 件 (前回報告 261 件、前年同時期 266 件)  
そのうち男性 240 件、女性 13 件で、男性は前回 (255 件) 及び前年同時期 (253 件) より減少、女性は前回 (6 件) より増加し、前年同時期 (13 件) と同数
3. 新規 AIDS 患者報告数は 110 件 (前回報告 113 件、前年同時期 102 件)  
そのうち男性 107 件、女性 3 件で、男性は前回 (109 件) より減少し、前年同時期 (98 件) より増加、女性は前回 (4 件) 及び前年同時期 (4 件) より減少
4. HIV 感染者と AIDS 患者を合わせた新規報告数は 363 件

## 【感染経路・年齢等の動向】

1. 新規 HIV 感染者：
  - 同性間性的接触によるものが 186 件 (新規 HIV 感染者報告数の約 74%)
  - 異性間性的接触によるものが 34 件 (新規 HIV 感染者報告数の約 13%)  
そのうち男性 27 件、女性 7 件
  - 静注薬物によるものは 0 件
  - 母子感染によるものは 0 件
  - 年齢別では、20～30 代が多い。
2. 新規 AIDS 患者：
  - 同性間性的接触によるものが 67 件 (新規 AIDS 患者報告数の約 61%)
  - 異性間性的接触によるものが 30 件 (新規 AIDS 患者報告数の約 27%)  
そのうち男性 28 件、女性 2 件
  - 静注薬物によるものは 0 件
  - 母子感染によるものは 0 件
  - 年齢別では、30～40 代が多い。

## 【検査・相談件数の概況 (平成 28 年 10 月～12 月)】

1. 保健所における HIV 抗体検査件数 (速報値) は 24,253 件  
(前回報告速報値 20,635 件、前年同時期確定値 26,783 件)  
自治体が実施する保健所以外の検査件数 (速報値) は 8,010 件  
(前回報告速報値 6,965 件、前年同時期確定値 8,457 件)
2. 保健所等における相談件数 (速報値) は 31,087 件  
(前回報告速報値 28,204 件、前年同時期確定値 35,235 件)

## 【献血の概況 (平成 28 年 1 月～12 月)】

1. 献血件数 (速報値) は、4,841,600 件 (前年同時期 4,909,156 件)
2. そのうち HIV 抗体・核酸増幅検査陽性件数 (速報値) は 48 件 (前年同時期 53 件)  
10 万件当たりの陽性件数 (速報値) は、0.991 件 (前年同時期 1.080 件)

## 《まとめ》

1. 新規H I V感染者報告数は前回及び前年同時期より減少していた。また、新規A I D S患者報告数は前回よりやや減少し、前年同時期より増加していた。
2. 新規H I V感染者は20～30代、新規A I D S患者は30～40代で報告数が多いが、10～80代までの幅広い年齢層において報告が認められた。性別・年齢を問わず、H I Vに感染する可能性がある。適切な予防策により感染を予防することが可能であり、また重要である。
3. 第4四半期は世界エイズデーを含む四半期であり、保健所等におけるH I V抗体検査件数及び相談件数は前回に比して増加した。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつくので、今後も保健所等の無料・匿名H I V抗体検査及び相談を積極的に利用していただきたい。

## 《平成28年 年間報告（速報値）》

### 【概要】

1. 今回の報告期間は平成27年12月28日～平成28年12月25日までの約1年（四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は1,003件で過去9位
3. 新規AIDS患者報告数は437件で過去6位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,440件で過去9位

### 【感染経路・年齢等の動向（速報値）】

1. 新規HIV感染者：
  - 同性間性的接触によるものが 725件（全HIV感染者報告数の約72%）
  - 異性間性的接触によるものが 169件（全HIV感染者報告数の約17%）
  - 静注薬物によるものは 1件
  - 母子感染によるものは 0件
  - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
  - 同性間性的接触によるものが 241件（全AIDS患者報告数の約55%）
  - 異性間性的接触によるものが 113件（全AIDS患者報告数の約26%）
  - 静注薬物によるものは 1件
  - 母子感染によるものは 0件
  - 年齢別では、特に30歳以上が多い。なお、50歳以上が約29%を占めている。

### 【検査・相談件数の概況（平成28年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（速報値）は117,860件で過去11位
2. 保健所等における相談件数（速報値）は118,466件で過去20位

### 《まとめ》

1. 平成28年は速報値ではあるが、新規HIV感染者報告数が平成27年よりやや減少し、新規AIDS患者報告数は平成27年より増加した。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路としては、性的接触によるものが8割以上で、男性同性間性的接触によるものが多い。HIV感染症は予防が可能な感染症である。HIVに感染していない者においては、適切な予防策をとること、HIVに感染した者においては、まずは自分の感染を知ることが、今後の感染拡大を防ぐために重要となる。国民の皆様には、保健所の無料・匿名での相談や検査の機会を積極的に利用頂きたい。
3. 速報値ではあるが、献血における10万件当たりの陽性者件数は昨年に比して減少した。血液製剤によるHIV感染を防ぐため、献血時の問診には適切に回答して頂きたい。また、HIV感染症が疑われる場合は、国民の皆様には保健所等での無料・匿名検査を積極的に利用頂きたい。
4. 新規HIV感染者・AIDS患者報告数に占めるAIDS患者報告数の割合は、約3割のまま推移している。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく。自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。